

脳大成理論 1-6

『利己主義について』

古くから宗教的な表現で、「神と悪魔」や「天使と悪魔」という題材があります。

「天使と悪魔」という題材においては、トムハンクス主演の映画のタイトルになったほどです。

脳大成理論では、天使という羽の生えた実像が存在するのではなく、また悪魔という角が生えた実像が存在するわけでもなく、これらは心の作用であると定義しています。

古くの方は、目に見えないものを想像上で実体として表現していました。その延長線上に神・天使・悪魔という本やアニメなどで見たことがあるイメージとして描いたのでしょう。

さて、ここから悪魔とは一体何かという観点から考察して行きたいと思います。

脳大成理論では、世間で言われている「悪魔」とは『利己主義を助長させる心の働き』と定義します。

では、利己主義とは何でしょう。辞書的な意味としては以下です。

自分の利益や自分の立場だけを考え、他の人や社会一般のことは考慮に入れず、わがまま勝手にふるまう態度。身勝手。利己説。エゴイズム。

利己主義を歴史的な背景から考えていくと、以下のようにまとめる事ができます。わたし達を構成している三大要素を「霊・心・体」と定義するとします。

霊とは、魂とも言い換えられ、脳大成理論では、目に見えないエネルギーである素粒子以下の周波数・振動であると考えます。わたし達の目に見える物質は全て素粒子以下のエネルギーから構成されています。

体とは物との言い換えられ、物質であり、現象・出来事であり、わたし達が五感で意識できるものです。

心とは、手引きの1-5で触れたように、意志・感情・思考を指します。つまり、脳であると捉えて頂けると分かりやすいかも知れません。

霊（魂）を「あの世」と呼び、体（物）を「この世」と呼び、心（脳）を「その世」と呼ぶこともできます。

更に、心（脳）は魂と体と両方に連関している要素であると言えます。

故に、別の観点から考察すると、

霊（魂）＝睡眠状態（目に見えない意識できない領域であり、あの世であると言える）

体（物）＝覚醒状態（認識できるものであり、実態のあるものであり、この世と言える）

心（脳）＝催眠状態（睡眠状態・無意識と覚醒状態・意識にまたがった状態と言える）

とも表現できます。

このように多面的に物事を捉えていくのも脳大成理論の特徴の1つです。

さて、悪魔的な働きという事を前述しましたが、宗教上の固有名で悪魔的な働きに代表されるものが以下です。

ルシファー…霊（魂）の側へ偏らせる心の作用

アーリマン…体（物）の側へ偏らせる心の作用

ルシファー的な作用は、「現実はどうでもいい。楽しければいい。魂の次元を高めましょう。現世利益から解放されましょう。」などの極端な論調のものです。

アーリマン的な作用は、「結果が全て。どれだけ稼いだか。どれだけ儲けたか。お金を持つことが至上価値であり、物質をどれだけ持てるかが喜び」などの極端な論調のものです。

このバランスが取れた状態をシュタイナーは「キリスト衝動」とであると提唱しました。お分かりの通り、いずれも極端な『利己主義』です。

更に、野口 晴哉（のぐちはるちか）氏は、我々が気をつけるべきはセクシャルなものよりも暴力表現である。と古くから言っていましたが、その暴力的な側へ偏らせる心の作用がアズラー（阿修羅とも言う）なのです。

このアズラー的な作用は近年に特に強く作用しているものです。

アズラー…人が痛み、苦しんでいる姿を見て性的快感や喜びを感じるという心の状態。

いつ頃からかは明確に提示出来かねますが、昨今ではいわゆるバイオレンスと呼ばれるものが映画にせよ、アニメにせよ、ドラマにせよ、極端に増えてきています。

これは極めて危険な状態であると考えます。

社会においても想像にも浮かばなかったような猟奇的犯罪であったり、子どもへの虐待であったり、加速するいじめ問題であったりと、いずれもアズラー的な作用だと言えます。

これらの作用はわたし達の心に誰しもが種として持っています。

大切なのは、その種に栄養を注がず育てないという事です。

昨今はこの悪魔的な作用の種に栄養を注ぐ情報があまりにも多く存在します。それらを自らの意志を持って取捨選択する事が重要です。

更に大切なのは、「入ってくるものではなく、出すものによって滅びる」という事です。

聖書には以下のように記されています。

マタイ15章

「口に入るものは人を汚さず、口から出て来るものが人を汚すのである」
するとペトロが、「そのたとえを説明してください」と言った。
イエスは言われた。「あなたがたも、まだ悟らないのか。すべて口に入るものは、腹を
通って外に出されることが分からないのか。しかし、口から出て来るものは、心から出
て来るので、これこそ人を汚す。悪意、殺意、姦淫、みだらな行い、盗み、偽証、悪
口などは、心から出て来るからである。これが人を汚す。しかし、手を洗わずに食事をし
ても、そのことは人を汚すものではない。」

マルコ7章「外から人の体に入るもので人を汚すことができるものは何もなく、人の中か
ら出て来るものが、人を汚すのである」

このように、入ってくる情報よりも、わたし達がそれを考えない、行動にしないことの
方がはるかに重要であり、影響があります。
つまり、受動よりも能動の方が強く、そして影響があるのです。

利己主義とは、身勝手な振る舞い、言動を想像しがちですが、更に深く考察すると「何も
しない、誰かがいつかやってくれる」と考え、嵐が過ぎるのを待っている人こそが利己主
義だと言えるのではないのでしょうか。

健全なモチベーションは前向きな不満足から生まれるのです。
悪魔的な作用を知り、利己主義ではなく、利他的な思想に立脚したとき、志が見えてきま
す。その志にぶれる事なく、突き進むためには、『純粋さ』が必要なのです。
心のバランスが取れた状態、つまり、利他主義は『純粋さ』から生まれるのです。

現在は、第四次世界大戦であると言えます。第一次世界大戦、第二次世界大戦は武力によ
る戦争でした。第三次世界大戦は経済戦争でした。そして第四次世界大戦は「精神戦争」
であり、純粋さと不純さとの戦いなのです。

敢えて、戦いと表現しますが、口を開けて待っていても何も現状は変わりません。
自らが事を起こし、同じ価値観を持った同志と手を取り合い、目指す志や自身の在り方を
磨いていく事が重要です。
脳が活性している状態は、まさに純粋な状態です。脳の不活性が及ぼす精神作用を見て頂
ければ明確です。

純粋でいる事の重要性を証明する事、これも脳大成理論の目指す重要なミッションなので
す。